

日本公庫総研レポート

『バイオテクノロジー等で医薬品産業を支える中小企業の事業展開』を発行

～ 中小企業による創薬技術の発掘・革新実例とは ～

日本政策金融公庫 総合研究所では、日本公庫総研レポート「バイオテクノロジー等で医薬品産業を支える中小企業の事業展開」を発行しました。

医薬品開発は、厳格な規制、非常に低い成功確率、莫大な開発費等、極めて重い負担を強いられます。これに対応するため、大手・中小の各プレーヤーによるリスク分担体制が築かれていますが、ここで重要な役割を果たすのが、実は中小企業であり、リスクを巧みに外部化しながら中核的な開発を担い、医薬品開発のフロントランナー的役割を果たしています。

本レポートは、同産業を担う先進的企業に対して詳細なインタビュー調査を行い、バイオ技術等を駆使して医薬品開発プロセスの一翼を担う中小企業の実態を探り、これを明らかにしたものです。本レポートの概要は以下のとおりです。

本レポートの概要

1. 医薬関連中小企業（創薬ベンチャーと医薬周辺技術系企業）の役割

医薬品開発では、創薬ベンチャーが、創薬シーズを発掘する働きをし、開発段階が進んだところで、大手製薬会社等へ技術移転（いわば“リレー”）する役割を果たす。こうした創薬ベンチャーや大手製薬会社が開発に専念できるよう、様々な独自技術でこれを側面支援するのが医薬周辺技術系企業である。ただし、日本では、欧米に比してベンチャーキャピタル等リスクマネーの出し手が少なく、開発資金が不足がちという課題がある。

2. バイオ技術等で医薬品産業を支える中小企業の姿

医薬関連中小企業は、様々な切り口からタイプ分類できる。例えば、経営者の出自には、当初からの開発当事者と非当事者の場合があるが、元開発当事者では自社開発に注力し、非当事者では社外から創薬シーズを積極採用する傾向がみられた。また、開発のためリスクマネーを呼び込むか、安定収入源を志向するかについても、企業タイプで特徴がある。

3. 医薬関連中小企業の成長・発展過程と事業展開のポイント

元来、医薬品開発リスクは、中小企業には過度に重い。一方で、大手企業に比べて身軽で意思決定プロセスが明快な中小企業だからこそ、積極的にリスク案件を手掛けられる。

一方、医薬周辺技術を自社の強みに据え、創薬に伴うリスクを直接負担しない医薬周辺技術系企業として、創薬の側面支援に回る方法も有効である。

※本レポートの全文につきましては、[こちら](#)をご覧ください。

<お問合わせ先> 株式会社日本政策金融公庫 総合研究所 中小企業研究第二グループ（担当：海上^{うなみ}）

TEL: 03-3270-6070